

元気なまちづくり 2

賑わいと活力あるまちを創ります

産業に活気があふれ、雇用の創出と交流人口の増加による経済効果が地域にもたらされるよう施策を展開する必要があります。



▼パイル織物

▲紀州へら竿

元気なまちづくり 3

教育との連携により子育てにやさしいまちを創ります

子どもを取り巻くさまざまな課題に対して効果的・多面的に支援する方策として、学習支援や子ども食堂など、「子どもの居場所づくり」を持続的に進めます。

また、安心して子育てできる環境を提供していくために、「子育て世代包括支援センター（ハートブリッジ）」の機能を強化し、家庭や子育てへの切れ目のない支援をさらに充実します。



さらに、不登校やひきこもり、非行などさまざまな問題が複雑化・困難化する中で、学校を核として、地域住民と教育および福祉関係者、行政が連携して子どもを総合的に支援する「学校プラットフォーム化」の仕組みづくりに取り組みます。

元気なまちづくり 4

地域全体で支え合いできるまちを創ります

本市の高齢化率が31.0%となり、今後も急速に高齢化が進むと考えられます。

このような状況の中、地域包括ケアシステムの構築に、スピード感をもって取り組み、生活圏域において助け合い・支え合いの仕組みづくりを進めるとともに、地域で担い手となる人材の育成を図り、高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、地域での連携や協働が生まれやすい体制を構築します。

さらに地域での助け合い・支え合いにより地域力が高まり、それを子育て支援や、災害への備え、ごみの減量化などの連携や協働が必要となる多くの取組みにつなげ、地域主体のまちづくりを推進します。

また、市民病院においては、地域医療の充実に努め、医師の確保と救急医療体制の充実を図り、安全安心の医療を提供します。

元気なまちづくり 5

安全安心な暮らしを支えるまちを創ります

公共の建物や道路・橋りょうなどの老朽化に対して、緊急性や優先順位を考慮し、改修や更新、長寿命化を計画的に行い、安全安心のまちづくりを行う必要があります。

防災・減災については、自主防災会の自主的な運営や、助け合いの仕組みづくりを支援し、自助・共助の意識向上を図るとともに、災害発生



▲工場などの建設が進む企業誘致団地

時には、危機管理室での対応人員を増やすなど市の危機管理体制を強化します。また、紀の川を始めとする河川の対策については、早期解決に向け、国や県に引き続き要望活動を行います。

地域公共交通については、高齢化が進む中、地域公共交通網形成計画に基づき、誰もが安心して暮らせるまちづくりに寄与できる公共交通として再編を行い、市民の移動手段の確保と利便性の向上を目指します。

元気なまちづくり 6

人が学びあい共に育むまちを創ります

これからの元気な橋本市を担う子どもたちには、基礎的な学力やそれぞれの個性を生かして能力を伸ばす教育、また心身ともに健康な身体づくりが必要です。

「橋本ふるさと学」も活用し、ふるさとへの愛着を深めます。



▲共有コミュニティの清掃ボランティア活動

また、学校と家庭、地域、行政が協力することで、地域の力を学校に、学校の学びを地域に広げ、一体となって地域の活性化と教育力の向上につなげる「共有コミュニティ」を推進します。

教育委員会の構成について

4月25日の市議会臨時会において同意を得て、小林俊治氏が教育長に、吉田元信氏が教育委員に任命されました。

●教育委員会委員（敬称略）

- 教育長：小林俊治
教育長職務代理者：米田恵一
委員：田中敬子、中尾悦子、吉田元信

就任のごあいさつ



自己肯定感や生きがいの持てる教育環境の整備や仕組みづくりに尽力いたします。

副市長の選任について

平木市長は、4月25日の市議会臨時会において、森川嘉久氏の副市長選任を提案し、承認されました。

就任のごあいさつ

4月の市議会臨時会において同意をいただき副市長に就任いたしました。

身に余る光栄であり、改めてその職責の重さに身の引き締まる思いでございます。

上杉鷹山公の藩政改革では質素儉約とともに殖産興業が進められました。本市では市長を先頭に既に種を蒔きつつあります。花を咲かせるには時間がかかりますし、世話も必要です。



◀市議会臨時会であいさつする森川副市長